

## 両宮山古墳(赤磐市)

備前国分寺跡の東方向に見える両宮山古墳/5世紀後半築造の前方後円墳で吉備の三大巨墳の一つ/左手が後円部、右手は前方部/三段築成の墳丘の周囲には、水を湛えた内濠と外濠の二重の周濠が巡っていた/墳形は大仙陵古墳の5分の2の相似形と云う



両宮山古墳の周囲を森山古墳、正免東古墳、廻り山古墳、和田茶臼山古墳が取り囲み、全体が広大な墓域となっている/また、更には小山古墳、朱千駄古墳等を配して、吉備地方屈指の大規模な両宮山古墳群(西高月古墳群)を形成している/和田茶臼山古墳は陪塚と見られている





南側の中堤の手前に標柱と説明板が立っていた

 video



葺石も埴輪も見つかっていないため、古墳築造の最終作業が行われなかった可能性があると言う/そうしたことと、両宮山古墳が築造されて以降はこの地域で同規模クラスの大形古墳が認められなくなることから、「日本書紀」雄略天皇紀に見られる吉備の反乱伝承と対応するが如く、吉備の政治的衰退と結び付けて語られる要因となっているようだ



遺跡

# 両宮山古墳

りょうぐうざん こふん

和田・穂崎

両宮山古墳は、五世紀の後半に築造された岡山県内では造山古墳、作山古墳に次いで三番目、備前地域では最大規模の前方後円墳です。

全長は二〇六メートルであり、後円部の径は一一六メートル、前方部の幅は一四五メートルで、前方部が発達した墳形をしています。高さは二五メートルであり、墳丘は三段築成を呈しています。くびれ部の両側には、極めて高い造り出しが設けられています。

古墳の築造当初は、墳丘の周囲に二重の周濠が巡っており、外濠を含む古墳の総長は三四九メートルに達していました。現在は外濠のすべてが埋没してしまい、水をたたえた幅約四〇メートルの内濠のみが確認できます。墳丘内部は未調査ですが、これまでのところ葺石や埴輪は見つかっていません。

一九二七（昭和二）年四月八日、国の史跡に指定されて現在に至っています。この古墳の周辺には、和田茶臼山古墳、森山古墳、正免東古墳をはじめ、小山古墳、朱千駄古墳、廻り山古墳を含めて、吉備地域でも屈指の古墳群を形成しています。

平成二十二年七月

赤磐市教育委員会





JAPAN HERITAGE

日本遺産

桃太郎伝説

日本遺産 Japan Heritage

「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～

りょうぐうざんこふん Ryoguzan Burial Mound

# 両宮山古墳

古墳時代中期（5世紀後半）に築造された前方後円墳ぜん ぼう ころ えん ぶんです。全長206mで岡山県内3番目の規模です。

周濠しゅう ころ（水を湛えた濠）や陪塚た た ほり ばい づか（周辺の小さな古墳）を持ち、大阪や奈良にある巨大な古墳に準じた造りになっています。一方で古墳には埴輪はに わや葺石ふき いしを設置していないという特徴があります。

この地に大きな勢力を持つ有力者がいたことで、対立する大和朝廷やまと ちょうていが派遣した吉備津彦命き び つ ひこのみことが、鬼神き しん（温羅とも呼ばれる）を退治する伝説が生まれたと考えられています。

## りょうくうざんこぶん わかひめ 両宮山古墳と稚媛伝説

今からおよそ千五百年前、このあたりは吉備上道臣きびのかみつみちのみ 田狭たさという

豪族が支配し、大和朝廷に並ぶほどの強い勢力を誇っていました。

両宮山古墳は、その田狭の墓ではないかと言い伝えられています。

田狭には稚媛という美しい妻がいましたが、あまりの美貌ゆえ

に雄略天皇が自分の后にしてしまいました。任那みやまの国司として派

遣されていた田狭は、留守中に妻を天皇に奪われたことを知り、

新羅しらぎと結んで天皇に背こうとしました。怒った天皇は田狭の子で

ある弟君わじぎみに父を討つことを命じましたが、弟君は新羅へは向かわ

ず田狭の軍と結ぼうとしました。これを知った弟君の妻樟姫くすのひめは、

夫に謀反の心があることを知り、弟君を殺してしまいました。

妻稚媛を天皇に奪われ、わが子弟君を殺された田狭の嘆きほど

のようなものであったでしょうか。しかし、田狭のその後は「日本

書紀」に記されていません。

それから十数年後、雄略天皇が崩御されると、稚媛は雄略天皇

との間に生まれた星川皇子ほしかわのみこを天皇にしようと田狭の子 兄君えぎみらとと

もに画策。皇太子白髪皇子しろかのみこと争いましたが、やがて立てこもって

いた大蔵に火が放たれて、最期を遂げます。

「日本書紀」には、滅びゆく豪族の姿と稚媛の数奇な運命がこの

ように描かれています。壮大な両宮山古墳は、今もなお、古代の

悲しい物語を語り続けているのです。



上が北方向



造出し

# ■ 兩宮山古墳平面復元図





ここから西側の中堤に登ろう

 video



中堤の南西隅から墳丘と内濠を見たところ/左奥が後円部、右手前は前方部

 [video](#)





そこで、左手を見たところ/右前方に括れ部にある造出しが見える





アップで見たところ/これが復元された造出し/括れ部の両側にあったらしい





同じく、右手を見たところ

 [video](#)



さて、墳丘の北東側から前方部へ進んでみよう/こちらにも標柱が立っていた





ここからアプローチする/前方の木々の部分が墳丘/右手前の壁に「両宮山古墳見学通路」と記された案内板が立て掛けられていた





この畦道を進むと前方部に取りつく

 video





前方部の裾へ入って行くと、一寸した平場に神社が見える





その手前にあった説明板





# 国指定史跡 両宮山古墳

りょうぐうざんこふん

赤磐市和田・穂崎

- 墳 形**：前方後円墳  
 ・三段築成  
 ・発達した前方部  
 ・くびれ部両側に高い造り出し
- 墳丘規模**：全長206m（備前地域最大）  
 後円部径：116m 前方部長：110m  
 前方部幅：145m 後円部高：23.9m  
 前方部高：25.1m
- 周 濠**：二重周濠  
 ・周濠を含めた古墳総長：349m  
 ・内濠：水をたたえる（一部埋め立て）  
 ・外濠：水田・道路下（周囲延長960m）
- 出土遺物**：墳丘調査が未実施のため不明  
 外表施設の葺石・埴輪は未確認
- 築造時期**：5世紀後半
- 陪 塚**：和田茶臼山古墳  
 ・帆立貝形前方後円墳  
 ・全長55m  
 ・二重周濠  
 ・外表施設の葺石・埴輪は未確認
- 周辺の古墳**：森山古墳、正免東古墳、小山古墳  
 朱千駄古墳、廻り山古墳  
 ・吉備地域屈指の古墳群を形成
- 指定年月日**：昭和2年4月8日  
 昭和53年2月8日追加  
 平成18年1月26日追加

平成22年7月 赤磐市教育委員会





これは両宮神社というらしい

 video









これは拝殿





その奥に本殿





そこで、前方部の墳丘を見たところ

 [video](#)





## 参考ホームページ

<https://tabi-mag.jp/ok0313/>

<https://kofun.info/kofun/150>

<http://geo.d51498.com/qpbpd900/riyoguzan.html>

<https://tabioka.com/ryoguzan-ancient-tomb/>

<http://okayamanokohun.blog.fc2.com/blog-entry-189.html>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%A1%E5%AE%AE%E5%B1%B1%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

<https://www.city.akaiwa.lg.jp/bunkazai/ichiran/cyuumoku/ryouguzan/2279.html>

<http://www.kurashikokukan.com/yomoyama/2015/202.html>

[https://tokuhain.arukikata.co.jp/okayama/2021/02/post\\_153.html](https://tokuhain.arukikata.co.jp/okayama/2021/02/post_153.html)

